

西多摩医師会報

1988年1月1日

181号

発行所・社団法人 西多摩医師会 東京都青梅市西分3-103
編集委員・石井 好明 井村 進一 TEL.(0428)23-2171(代)
栗原 琢磨 小林 杏一
道又 正達 村山 正昭 渡辺 良友

新年号目次

会員種別平均年齢表	東京都医師会	(2)
新年を迎えて	西多摩医師会長 西村邦康	(3)
新年にあたり	副会長 大塚 渉	(4)
	副会長 松原貞一	(4)
西多摩地域保健医療推進協議会要綱		(5)
西多摩地域医療機関連絡会設置要綱		(5)
新春文芸	堤 次雄	(6)
	小泉新策	(7)
地区医師会生涯教育担当理事連絡会報告	塩沢永康	(8)
三多摩地区医師会広報研究会	井村進一	(10)
風疹抗体検査とその指導	西村邦康 島田美恵子	(11)
社団法人西多摩医師会の業務及び財産の状況に 関する検査について		(12)
医師会日誌		(13)
理事会報告		(14)
あとがき	道又正達	(14)

会員種別平均年齢表

87. 11. 18

東京都医師会

会員種別	人 数	平均年齢
A	9, 2 5 8人	6 0. 4歳
B	2, 3 0 1人	5 3. 7歳
C	8 2 6人	4 9. 1歳
計	1 2, 3 8 5人	5 8. 4歳

ABC会員種別別入・退会状況

(昭和57年~昭和61年)

	入 会			退 会			異 動						増 減		
	A	B	C	A	B	C	A→B	B→A	A→C	C→A	B→C	C→B	A	B	C
昭和57年	208	250	97	263	181	93	41	48				7	- 48	+ 69	- 3
昭和58年	210	238	72	259	229	72	34	61	4	2	1	2	- 24	- 17	+ 1
昭和59年	191	204	93	266	198	86	46	52	2				- 71	0	+ 9
昭和60年	188	261	71	222	240	86	40	40	1				- 35	+ 21	- 14
昭和61年	204	278	85	242	178	114	44	46		1		1	- 35	+ 99	- 31
計	1, 001	1, 231	418	1, 252	1, 026	451	205	247	7	3	1	10	- 213	+ 172	- 38

(注) 12月1日現在の会員調査とは多少異なる。



新年を迎えて

西多摩医師会長 西村 邦 康

新年おめでとうございます。

会員諸先生には御家族の皆様方と御一緒でお健やかに新春をお迎えになった事と心からお慶び申し上げます。

西多摩医師会の会務、事業も会員皆様方の心からの御協力により円滑に運営されました事を御報告申し上げますと同時に感謝申し上げます。

昨年はMIT教授利根川進博士が医学生理部門でノーベル賞受賞と言う喜ばしいヒットニュースがありました。我々の関係する医学の分野で免疫、分子生物学の目覚ましい進歩とその重要性を改めて痛感させられました。

ところで日本の社会は成熟社会、高度情報化社会と言うことで東京一点集中化とそれによる地価暴騰、そして急ピッチな円高と社会情勢は急速に変化しています。それに応えて各分野で血のにじむリストラクチャリングが行われた。同時に国民は質の高い所謂クオリティライフの実現を求めていると言う大変な年でもあった。

医療界に於いてもクオリティの高い医療の供給を求める国民のニーズと財政的見地から厚生省は国民医療総合対策本部の中間報告を発表した。この報告は我々に大きなインパクトを与えた、これに日医、都医が専門的立場から意見を述べまた批判をしている事は御承知であります。しかしこの報告の中には我々も充分考えていかなければならない問題が含まれていると考えます。この事実は今年改定される診療報酬費にも関係し中医協の場での医療費アップの要求は厳しく、依然として我々を取巻く環境は厳しいと言えます。

西多摩医師会もこの厳しい環境を踏まえて西多摩地域住民に質の高い医療を供給して市民の期待に応えるよう努力してきた。即ち市民公開講演会の開催、健康教育への参加、又自らの学習のため生涯教育の充実に努めてきた医療供給システムの面でも良質な医療の提供をするという事で避けて通れぬ病院、診療

所の機能分化と連携、公私の役割分担等所謂病診連携の実をあげるよう努力してきました。具体的には青梅市立総合病院増床問題を通じ今まで必ずしも充分とはいえなかった自治体の地域医療への理解を更に自治体に深めてもらい『東京西多摩地域医療計画1984』の各論とも言える『西多摩地域保健医療推進協議会』『西多摩地域医療機関連絡会』を発足させて公私病診の役割分担と円滑な病診連携で質の高い医療の提供の実現を目指してきました。また医師会の事とは異なりますが西多摩医師政治連盟規約の明文化も円滑に行われました。

今年は以上の観点から高次医療の提供だけが質の高い医療ではなく医の原点にたった医療こそ質の高い医療であることを市民に充分理解してもらうよう努力をしたいと考えています。その具現化として公衆衛生活動(各種検診事業)に積極的に取組みその充実を計り、又高齢化社会でさけられない課題である在宅ケアの問題等々を検討し、益々病診連携の実をあげ会員、市民の期待に応じていきたいと考えています。そして社会の高齢化は我々医師会にとっても例外ではなく西多摩医師会員の高齢化も避けられない現実であることを認識して医師会の活性化の為に西多摩の地域医療システムを考える場合これを考慮した医療提供システム(デイケア、ショートケア、中間施設等の在り方等)を考えなければならぬと考えています。

辰年、これらの課題を[龍の髭を蟻が狙う]とならぬよう着実にこなし90年代の医療の足がかりの為に昇龍自在でいきたいと考えています。

会員諸先生の御健勝を祈念しまた御協力をお願い申し上げます新春の御挨拶といたします。



新年にあたり

副会長 大塚 渉

明けましておめでとうございます。

先生方には、ご一家お揃いで明るい新春をお迎えの事とお慶び申上ます。

昨年1年を振り返ってみますと、私などただせあしなく、そして結局は、医師会の仕事等何もしなかったように思われ、申し訳なく思っております。

さて、昨年7月頃かと思いますが、市立病院の増床問題が起りまして、8月にしては、異例の臨時理事会が開催されました。ご承知の通り、「東京、西多摩地域医療計画-1984」では、この地域は、既に病床は充足しているとの事である。

市長さん、院長さんと、私共担当役員との間で、再三に亘り、協議が行われましたが、その背景には、病診連携が必ずしも円滑に行われていなかったように思われました。

この問題を解決すべく、恒例の「医療懇が11月に開かれ、この席上で、一市立病院としてでなく、西多摩全域の問題として、とらえて行くべきだと云う西村会長の発案で、3市5町1村の首長と私共で、忌憚のない意見

の交換が行われ、

- ① 西多摩地域保健医療推進協議会「別掲」
 - ② 西多摩地域医療機関連絡会「別掲」
- の設置が決まりました。前者は、西多摩地域住民に適切な医療を如何に提供するかであり、2月には、第1回の会合が持たれる予定である。又後者については、公私多忙の中、昨年末第1回の会合が開かれ、病院側からは青梅、阿伎留、奥多摩の3公立病院と、福生病院の院長、医局長、事務長が、医師会側からは、正副会長と3ブロック長が出席し、公的病院と私的医療機関の間に、生涯教育としての病診連携と、地域医療としての、それを如何にあるべきか、討議されました。そしてこの連絡会の会長には、医師会側から、西村会長、副会長には病院側より、青梅市立病院の星院長が就任されました。この会が新しい年度に、どのように展開されるか期待される所です。

任期迄あと3ヶ月です。βブロッカーを飲みながら、その責を果したいと思っております。よろしくご指導、ご叱正をお願い致します。

以上

副会長 松原 貞一

謹しんで新春のご挨拶を申し上げます。

医学の進歩は日進月歩、最近では加速度的な発展を遂げており、愛や憎しみといった心の領域まで分子レベルでの解明がなされ、生きた心臓を取り出す為には、死の定義までもが変えられる時代となった。各分野で専門化や細分化が進行し、そこから溢れ出る情報の量も、今や個人の処理能力をはるかに越えるものがあり、医学全体に専門的知識の網を張ることなど、まさに夢物語となってしまった。また医療の産業化・重装備化も止る所を知らず、住民の専門嗜好、医療に対する期待やニーズの多様化等々、激しい変革の流れの中で、我々は今は只もう流れに流されつ放しといっ

た感を否めない。医療の先進国として常に我々が目標として来たアメリカの医療が、今まさに崩解の危機に瀕している。医療の担い手である我々が今その道を誤れば、前車の轍を踏むことは必定、やがては地域医療の崩解をみることも火を見るより明らかである。医師会としても今こそ何を為すべきかを熟慮し、住民の健康を守る為、地域医療に課せられた責任を果して、「さすがは先生達」と言われるようになってこそ、激動の中で我々が生き残れる唯一の道であると思う。

今年も、いまだ遷歴まえ行動力のある会長の指導に期待をし、その補佐役の一端を担うことが出来れば幸せである。

西多摩地域保健医療推進協議会要綱

1 設 置

西多摩地域広域行政圏協議会ならびに社団法人西多摩医師会が密接な連携のもとに、西多摩地域住民に対する適切な保健事業、良質な医療を提供し、健康の維持増進をはかるため、西多摩地域保健医療推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2 協議事項

協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域保健事業に関すること。
- (2) 地域医療計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、協議会の設置目的を達成するために必要な事項に関すること。

3 組 織

協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 西多摩地域広域行政圏協議会を代表する委員 若干名
- (2) 社団法人西多摩医師会を代表する委員 若干名

4 役 員

協議会に会長および副会長を置く。

- (1) 会長は、前項第1号の委員の互選に

より選出、協議会を代表し、会務を総理する。

- (2) 副会長は、前項第2号の委員の互選により選出、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- (3) 役員の任期は、2年とする。ただし、再選を妨げない。

5 会 議

協議会の会議は、会長が必要に応じ招集し、議長となる。

- (1) 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聞くことができる。

6 庶 務

協議会の庶務は、西多摩地域広域行政圏協議会会長である市町村の保健担当課において処理する。

7 その他の事項

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、その都度協議会において定める。

8 実施期日

この要綱は、昭和62年11月17日から実施する。

西多摩地域医療機関連絡会設置要綱

1 設 置

西多摩地域内の公的病院と私的病院、私的診療所との機能分化と連携について具体的な協議を行ない、地域医療の円滑な推進をはかるため、西多摩地域医療機関連絡会（以下「連絡会」という。）を設置する。

2 所掌事項

連絡会は、地域医療の充実、向上をめざし、情報の交換、課題の提供並びに病診連携の具体策について調査検討を行なう。

3 組 織

- (1) 連絡会は次に掲げる委員をもって構成する。

- (イ) 各公的病院の院長又は副院長及び

医局長、事務長

- (ロ) 社団法人西多摩医師会役、委員 若干名

4 役 員

- (1) 連絡会に会長及び会長職務代理者を置く。

- (2) 会長及び会長職務代理者は、委員の互選による。

5 会 議

連絡会の会議は、会長が必要に応じ招集し、座長となる。

6 庶 務

連絡会の庶務は、会長の所在する団体の事務局が担当する。

7 その他の事項

この要綱に定めのない事項は、その都度連絡会において定める。

8 実施期日

この要綱は、昭和62年11月17日から実施する。

新春文芸

びっくりしたッ

堤 次 雄

夏の或る日、朝7時頃のことであった。電話が鳴って、「Wです。主人が変なのです。もう駄目なのかもしれません。すぐ来て下さい」。その声は震えていて、うろたえた奥さんの様子が見えるようであった。

私が行った時、Wさんの体には温りはあったが、心臓は停止し、瞳孔は開き、もう何の反応もなかった。背部にはうすく死斑が見られ頸部、下肢には軽い強剛があった。

「急性の心臓死と思います。警察に届けて下さい」。と私は奥さんに告げて帰った。

奥さんの話によると前日、午後11時ごろ寝室に行った時には、Wさんは鼾をかいて眠っていた。翌朝7時におこしに行って応答がなく異変を知ったのである。

Wさんは60才、やや肥りぎみであった。私の所には2年ほど前に軽症高血圧、心悸亢進の訴えで見えて3、4回診察したことがあった。会社の大学病院での定期健診では3年ほど前から心電図上での異常を指摘されていたが、普通の生活は許可されていたので、日課のジョギングとか、時おりはゴルフも楽しんでいた。Wさんはずっと体調は良かったようである。私の所には、かれこれ一年以上も見えていない。

私が帰ってから10分くらいして、また電話があった。これが何と警察からではなく、救急隊からであった。私は我が耳を疑った。

「Wさんの蘇生術をやっています。直ぐ来て下さい」

「エエッ。何です。そんな馬鹿な――。心臓も止まっていて死斑もでてたのだよ」と私は声を荒げた。

「とにかく、こちらに来て、家族に説明をお願いします」と云うのであるから、私は本当にびっくりした。動転したのである。

Wさんの家に行く途中、私は子供の時に聞いた話をひょっと思いだした。

となり村に呑兵衛さんという大へん酒好きの男が居た。或る時、大酒を喰って道ばたに寝てしもうて、霜にうたれて死んでしもうた。呑兵衛さんは座棺に入れられ、村の若い衆に担がれ揺られながら墓場に行く途中、穴の手前で息をふき返し、「おーい。俺は生きとるぞ」と叫んで危いところで穴に入らずすんだってさ」。という話である。

Wさんは呑兵衛さんのように復活したのだろうか。私はWさんを再び見るまでの僅かな時間が本とうに不安であった。

医者として人の生き死の判断もできず、家族に未だ生ある人を誤って死を告げたとなると医師として大失態である。こんな恥しいことはない。これで医師としての私の生命は終るのだと思った。私がWさんの家に行った時、救急隊員はWさんをベットから床におろし、掛声をかけながら、懸命に蘇生術をやっていた。私はすぐに中止させた。Wさんの顔のチアノーゼ、四肢の強直は更に強くなっていた。私はもう一度、家族に「もう大お前に亡くなっておられます。」と告げたのであった。

なぜ、こんなことが起ったのだろうか。家族としては、ほんの今まで元気でいた人が突然に死を宣告されたなんて、信じられなかったのであろう。

体に温りはあるし、よくみると息をしたように見えた。手足が少し動いたようにも思える。脈もかすかながら触れるように感じる。まだ死んではいない。救急隊に頼めば助かるかもしれない。と一るの願望から救急隊を呼んだのだと思う。

Sudden death。急激な発症による予期せざる病死を云う。

私は開業して20数年になるが、外因死は別として、検案した突然死は3人。目の前で急死(心臓死)した人、2人を経験している。この数は多いのか、少ないのか知らない。

企業のトップ、或は要職にある壮年、熟年の人の急死を昨今の新聞の死亡記事欄に時々見うける。

石油ショック。続いて円高不況と世の中はきついストレス社会となっている。そのせいか、働きざかりの人の突然死が増えているのは確かである。

私達は、また、Wさんのような、びっくりした。の例に会わないとも限らないのである。

戌辰の新春に回想す 小泉新策

初日の出 拝せば 戌辰の年 迎う
思ひ出 多き 戌辰の年 とは

長き願望の 変る I N F 条約 調印なる
世界は 変わる I N F 端緒となるか

I C B M や S L B M に は つ 手 も つ け ず
遠き道程 更に歩みは つ ぎ けて

願はくは 明るき 世界への 願 移行にと
せめは て 働き あればとの 願 ひて

為政者や 閣僚の 資産 公開さる
ど の 手 で か く も 働 き 貯 め し か

本年は 医療改革を 予算の 噂きく
肅正 さるとか 予算の 噂きく

徳川の(実際二六三年)三百年の 鎖国時代
農民等の 一捧二千数百回とは

今の世に 平和であれよ 平等にと
願う心は 何時も 変らず

I N F 全廃条約調印 62・12・9 (中距離核戦力)
米 パーシング II、ソ連 S S 20 射程 500 km 以下

I C B M 大陸間弾道ミサイル 6400 km 以上
ロケットエンジン推進ミサイル

S L B M 潜水艦より発射のミサイル
トライデント(米) S S N X (ソ) が代表的

写真展のお知らせ

日 時 昭和63年2月16日(火)～21日(日)
場 所 福生市 田 辺 画 廊
参加費 5,000円

医師会関係の同好の志を募って写真展を開いてみよう
という試みです。何点でも構いませんので、多数の参加
出品を希望します。詳細は松原内科医院 0425(54)2427まで。

地区医師会生涯教育担当理事連絡会報告

S 62. 11. 12 (木) 於 都医 P. M. 2:00~3:30

松永都医会長、国分委員長、鈴木副委員長

理事：峰谷、竹内、嶋田

委員：杉山、山上、荒井、各

欠席：東條理事、桜井委員

司会：峰谷理事

司会：現況と今後の方向についての話し合い

松永会長：国民のニーズが多様化し、医学知識が普及して来たので、個々では対応出来なくなってきた。集団で対応し高度の医療が出来る体制を作る必要がある。理論の時期は過ぎて実行の秋である。各地区医師会では生涯教育委員会を作って、企画→実行→評価→集録→報告→今後の意見を出すように十分に実行する活躍をお願いしたい。

議事 1. 昭和61年度日本医師会生涯教育制度自己申告制試行結果について

(S. 61. 6. 1 ~ 11.30 実施)

1. 全国 対象者 90,805 人 申告者 58,824 人
申告率 64.8% 達成率 94.5%

平均学習時間 105.4 時間

東京 対象者 10,977 人 申告者 5,218 人
申告率 (43/47)47.5% 達成率 (17/47)

95.6% 平均学習時間 (13/47)106.8 時間

西多摩 対象者 申告者

申告率 (34/47)39.5% 達成率 (38/47)

89.9% 平均学習時間 (6/47)127.5 時間

註 東京 申告率 47.5% (43/47)47は全国の医師会数 47医師会中 43番目
西多摩 申告率 39.5% (34/47)47は東京都医師会数 47医師会中 34番目

2. 年代別：60才代→50才代→40才代→70才代→30才代

3. 各科別：仙台、広島のみ医師会だけであったが、泌尿器科、眼科が少なかった。

4. 12大都市医師連絡会議では認定専門医制度とからめないようにとの少数意見があったが、大多数は「さらに充実させよ。」との意見であった。

Q. 目的意識を持てるように説明して欲しい。

A. 現在しっかりしたビジョンはまだできていないが、第三者が立派だと評価するもの

を作り、医師会はこれだけのことをやっているのだという実績を厚生省に認めさせるようにしたい。

2. 生涯教育制度における病診連携～日本医師会雑誌別冊について(資料)

1. 病診連携の現状と考察 目黒医師会生涯教育委員会 山内 真

○生涯教育への道 府中医師会理事

中村 常弘

2. 12大都市医師連絡会議では、病診連携、体験学習に各医師会でそれぞれで特長のあるものを作るように。

オープンシステム病院は仙台、横浜、大阪、福岡、東京(板橋医師会、練馬医師会各病院)の五大都市で行われている。

3. 生涯教育学習時間記録メモについて (資料)

日本医師会員にならず、都医師会員だけのものは800名いるので、この人たちにも地区医師会を通じて配布するように準備中である。

4. 生涯教育制度における病診連携推進の協力依頼に対する厚生省からの回答について(資料)

厚生省が関係機関に病診連携に協力する様に通達を出してあるので連携しやすい筈である。

5. 昭和62年度日本医師会生涯教育講座の開催について(資料)

今までは製薬会社の協賛を得るため疾患とが治療が多かったが、もっと広範囲にテーマを選ぶように日本医師会より指導があり、第一会場は生涯教育委員会で第二、第三会場は学術委員会で教育機関に現在話題になっている。テーマを37題提出してもらい各委員に投票してもらい3題決定したものである。

6. 地域医師会における病診連携の現況について(資料)

1. ○生涯教育委員会設置：47医師会中設

置41(87%) 学術委員会で4(8.5%)63
年度設置 2(4.3%)

- 病診連携の状況：病院と連携中29
(62%) 会員各自で連携中3(6.4%)
連携考慮中 15(32%)

2. 責任ある態度をとって欲しい。そのために最少限度の取り決めをしてもらいたいので、協定案のモデルを2~3作っているの、それを参考にして病院側と協定を作って体験学習を行なって欲しい。

Q. 病院は有難迷惑をしているのではないかなにか医師会でお礼をしたらという意見が理事会で出たが都医師会の対応を見て決めようということになったが、都の考え方は

A. 都の調査では80%が協力してくれることになっている。都立病院は協力したいが、都の規約があって出来ない等、各病院で色々の希望があって仲々難しい。

地区医師会毎に病院と話し合ってもらいたい。やりやすいことからやって欲しい。

7. 昭和62年度地区医師会主催学術講演会の開催テーマについて。

どんどんどんなテーマに関心を持っているのかを考えて行きたいので、意見を聞かせて欲しい。

Q. 生涯教育制度を試行して、

- ① どんなメリットがあったか。
- ② 今後どうあるべきか
- ③ 社会にどのようにアピールして行くのか。

A. ① 少なくとも医師会のリードで医師は勉強をしているという姿勢を示したという社会の評価を得たのではないか。

② 体験が大切だから、体験学習に重点を置いて行きたい。

③ 形を作って公的機関を通してアピールして行きたい。

Q. 講演会の開催場所と始間について、テーマは同じで2ヶ所に分けて行ったら、時間は夜 P. M. 7:00 から行ったら。

A. 会場費が高いし、スポンサーをつけるのに難しいが、今後委員会で検討して見ま

す。

Q. 自己申告制の試行だから参加したが、これを今後も続けて行くとなると、しんどい。老人も実力のある人が沢山いるのに子供扱をして不愉快である。むしかえして申し訳ありませんが……

A. ご意見を承っておきます。

○都の講演会に年配者が多く若い人が少ないのは、若い人は卒業したばかりだし、稼ぎ時だから、年配者は暇だから、

◎最近の医療事故の問題で、タイミングを考えた検査をしないための訴えが多くなって来た。そのためにも、病診連携ができて、人間関係がよくなりカバーされるのではないか。その意味でもメリットがある。

(文責 塩澤 永康)

お 知 ら せ

(63年2月の保険提出日)

2 月 8 日 (月)

— 正 午 迄 —

訂正

先月号 P. 6 7行目

先生は治療中自殺されたことがありますか

→先生は治療中の患者さんに自殺されたことがありますか……に

三多摩地区医師会広報研究会

11月24日に府中市医師会館で開催された。
議題：対外広報活動について

対外広報の概念が非常に広義に使われていた。28地区に共通するものは下記の通り。

1. 検診事業
2. 接種事業
3. 健康相談事業
4. 健康教育事業
5. 各市広報誌への健康記事
6. 医師会報発行
7. 学校医の保健参加
8. 講演会その他（医師会学術研修会の特定グループ、または一般への公開）
9. 各市主催イベントへの医師会員の参加
10. 医師の作品展の一般公開

等々であった（電話相談もあった。）

会員総数20名の医師会から、広域で多様な西多摩医師会まで、事情は多様である。少数会員医師会は、北多摩医師会から、南多摩医師会から、行政単位で分離独立、もしくは下部組織として独立し、歴史が浅いと感じられる会が多いように思った。西多摩医師会の行

政単位別分離独立の是非は別として、小単位になると、まとまりは良くなっても、大変な怒力が必要だと痛感した。小単位でも、会員間の和が乱れて困っているという現実もあるように見受けられた。

「医療最前線」作成の苦労はなし等もあり視聴者からの医療相談は一都九県に及ぶという。視聴率を2%から5%まであげるのは大変なことで、スポンサーや放映時間帯に左右されひいては予算面の苦労も大きいようである。各地区で「絵になる」医療機関とトピックがあれば、東京都医師会広報委員まで御連絡下さいとのことであった。

なお、各都市議や、新聞記者と日頃から、会見の場を設けることにより、善きにつけ、悪しきにつけ、有益であるとの意見もあった。

出席者は下記の通り、

- 進行 府中市医師会理事 笠間 雪雄
 挨拶 府中市医師会長 小泉 乙也
 東京都医師会理事 牧 政明

議題

対外広報活動について

府中 笠間 雪雄

三多摩地区医師会広報研究会出席者名簿（敬称略、順不同）

医師会名	氏名	医師会名	氏名
1 東京都医師会 理事	牧 政明	17 小金井市医師会 理事	宮本 誠
2 " "	石塚 寛	18 国分寺市医師会 "	日向 正
3 " 広報委員長	杉浦 稔	19 国立市医師会 "	窪川 良武
4 " 広報副委員長	広瀬 正義	20 武蔵村山市医師会 "	小沢 潔
5 " 広報委員	近藤 忠雄	21 狛江市医師会 "	保坂 孝二
6 " "	牛尾 博昭	22 三鷹市医師会 広報委員長	川久保 亮
7 " 事務局	新井 祐司	23 調布市医師会 理事	川野 嘉彦
8 町田市医師会 広報部長	上妻 善生	24 日野市医師会 "	伏木 讀二
9 田無市医師会 理事	鈴木 良映	25 多摩市医師会 "	高田 幸枝
10 東久留米医師会 "	高山 英一	26 稲城市医師会 "	平野 源一
11 保谷市医師会 "	丸山 正子	27 府中市医師会 会長	小泉 乙也
12 西多摩医師会 "	井村 進一	28 " 理事	笠間 雪雄
13 北多摩医師会 "	野上 秀夫	29 " 委員	香取 庸平
14 立川市医師会 広報部長	宮本 建	30 " "	中川 雅明
15 小平市医師会 理事	嘉数 能雄	31 " "	中島 辰馬
16 東村山市医師会 "	浅谷 浩正	32 " "	白倉 徹哉

以上 文責 井村 進一

風疹抗体検査とその指導

福生市立福生第一中学校校医 西村 邦康
 ” 養護教諭 島田美恵子

本年9月『妊婦間違え中絶手術、出産予定の胎児死なす』とショッキングなタイトルで中学校養護教諭が、妊娠2ヶ月で風疹に思った人と間違えられて、手術を受けたと新聞記事は報じていた。以前保健所の風疹予防注射を手伝っていたとき、待ちに待った高年妊娠の友人が風疹にかかったため中絶手術を受けるはめになったから私も風疹予防注射を受けると言う人に会った。又3歳児検診で聴力障害の子供を診察しその原因は風疹であると聞き、常々、風疹の恐ろしさと予防注射の持つ意義を強調する必要性を感じていたが上記の記事で改めて風疹予防注射の意義の重要性を痛感させられた。

風疹は昭和34、40年沖縄で大流行し、その結果先天性風疹症候群児が多く見られたその教訓で昭和52年から中学女子2年に風疹予防注射が義務づけられ現在に至っている。

福生第一中学校では風疹予防注射実施にあたり今までの風疹予防注射接種者のあまりの少なさを反省して、昭和58年当時の養護教諭（鈴木先生）と種々検討し、単に予防注射を行うだけではなく風疹予防注射の意味を理解させる、具体的には抗体の有無を検査しその結果を生徒に知らせると言う事が生徒の将来にとって重要な意義があると考え、PTAの了解も得て生徒の風疹罹患有無の問診調査と予防注射実施前の風疹抗体検査を実施し、免疫未獲得者に予防注射の接種を行うことにした、併せて事後処置として接種5週後に接種者の抗体獲得の有無の確認の為に抗体検査を実施してその結果を生徒に知らせた。

2年後風疹予防注射前の抗体検査は福生市で行う事になったが、現在もなお福生第一中学校では予防注射後の抗体獲得の追跡調査を継続実施している。その結果は下記のとうりである。

「考案」

以上の結果を分析すると 1) 一般的に指

摘されている様に抗体陽性者は約70～80%である。

1) 本人が風疹にかかっていると思っている即ち抗体(+)であるはずの者に抗体(-)の生徒がいる。

1) 予防注射後の抗体獲得検査によって抗体(-)即ち免疫未獲得者が数名いる。

1) 予防注射接種を希望しない生徒がいる

以上を学校保健の立場から予防注射実施と事後処置にあたり、風疹の恐ろしさ、抗体陽性の意味の理解を深めさせ、思い違いの生徒 接種後抗体未獲得者そして予防注射未実施者の指導、又抗体獲得率の向上等を検討課題としたこの課題の解決と指導に就いては、

本校では島田が次の様な個別指導を行っている。

1) 抗体検査の結果として検査機関からのデータを配布し生徒及び保護者にも理解出来るように解り易い表現でデータの見方と生徒の立場を説明した文書を配布する。

1) 中学二年女子で抗体値を知らない者、予防注射未接種者、予防注射を受けたが抗体未獲得者であるものなどに対しては、翌年中学三年になった時に改めて抗体検査をうけることから始めてみるよう勧める、その際風疹の害を再度訴えたが風疹罹患の記憶だけに頼る事が非常に危険であり、予防注射をうければ済む問題でもないと言う事と注射の好悪で受ける受けないを判断するのは論外であることをわからせる。

1) 中学三年女子で抗体未獲得のままに卒業するものには将来妊娠する年頃を迎える前に自ら積極的に保健所などで抗体検査や予防注射を受け抗体獲得に努めるようすすめる。

[まとめ]

健康保持は自己防衛及び自己管理が本来の姿である。その為には個人の情報を正確に本

人に伝達することが大切であり、特に次世代に害を及ぼす風疹についてはこのことは重要な意義があると考え。又この風疹予防注射を通じ他の予防注射についても予防注射の

意義を公教育の場で徹底することは、数年後母親になると思われる女生徒にとっては大変重要な事であり、学校保健活動の一つの任務と考える。

年度	対象者数	風疹罹患患者数	予防接種前抗体値		予防接種者数	予防接種後抗体値	
			抗体>8	抗体 \geq 8		抗体>8	抗体 \geq 8
58	231	64	183	30(2)	48	—	—
59	145	80	130	15(5)	15	14	1
60	147	67	109	38(6)	30	29	1
61	147	57	94	53(7)	46 ※	41	3
62	133	58	100	33(12)	30 ※	23	4

注 ()内の数字は風疹罹患を申告したもののうち抗体(-)の人数

※ 接種後の抗体検査を受けなかった者も含む

社団法人西多摩医師会の「業務及び財産の状況に関する検査」について

昭和62年11月30日、東京都知事より「公益法人の設立の許可、認可、監督等に関する規則(昭和31.5.31)東京都規則(第65号)」第14条に基づいて、社団法人西多摩医師会の業務及び財産の状況に関する検査を昭和62年11月30日(月)午後1時から、医師会事務所において実施する旨、通知を受けました。

当日、医師会から大塚副会長、古屋事務長及び事務職員立ち会いのもと、都総務局行政

部指導課、大内 実主事及び中山照久主事の二名の検査員により、綿密かつ慎重、長時間にわたる検査が行なわれました。

昭和63年12月7日、検査指導結果通知書が都より、西多摩医師会宛に送付されました。

内容は、下記のとおり、

「概ね良好」とされ、何等問題になる点はありませんでした。

公益法人検査指導結果通知書 (コピー)

総 評

- ア 事業の執行状況は(概ね良好・普通・良好でない)と認められる
 イ 庶務事務の処理状況は(概ね良好・普通・良好でない)と認められる
 ウ 経理事務の処理状況は(概ね良好・普通・良好でない)と認められる
 エ 財産の管理状況は(概ね良好・普通・良好でない)と認められる。

1月30日 新年賀詞交換会
(青梅福祉センター)

会員通知

- 窃盗被疑者の手配依頼
- 乳児ボツリヌス症の予防対策について
- 「62年度日医会生涯教育講座」の開催について
- 学術講習会
- 62年3期分諸会費納入について

- 予防接種実施についてお願い
- 私立学校教職員共済組合の組合員証の更新について
- 青梅市立総合病院CPC案内
- " " 12月分宿日直表
- 労災ポスター
- 会報
- 学術研究会
- 年末年始医師会館休館のお知らせ

理事会報告

11月24日(火)

- 1) 都医地区医師会長協議会報告 西村会長
関業医の高齢化(巻頭の部分参照)とそれに伴う諸問題
日医会館建設のニュース
中医協医療実態調査について
- 2) 地区医師会からの報告
大坪会東和病院経過報告の説明
渋谷区内職域病院の保健診療
第5回江戸川医学会
- 3) 医療懇 大塚副会長
自治体より支払われる予防注射、各種検診、診査等の諸手当は既報の如く承認
西多摩地域保健医療推進協議会および西多摩地域医療機関連絡会承認
(本文参照)
- 4) 地区医師会地域医療担当理事連絡会報告
東京都保健医療計画調査会の検討状況について
保健サービス部会と医療機能部会の2部会を設置して、今回後者から中間のまとめとして
東京都における二次医療圏の考え方についてといった資料を配布、当地区は問題なしとのこと
東京都健康プラザのイメージを印刷したパンフ一枚 以上 宮川理事
- 5) 地区医師会生涯教育担当理事連絡会報告
本文のなかで掲載いたしました。
塩沢理事
- 6) 難病患者訪問診療を当医師会でも
松原副会長

公衆衛生委員会で早速検討

- 7) 東部地区の休日、祭日準夜当番について
塩沢理事
活発な参考意見あり、ブロック長に一任
- 8) 東京都青梅保健所結核診査協議会委員の推薦について
- 9) 五日市
- 8,9) 共各ブロック一任 足立理事
- 10) 子宮体部癌検診については、公衆衛生委員会で鋭意検討 林理事
(紙面の都合により来月号に繰越して報告いたします)

あとがき

新年号の編集を終えて

ご執筆下さった会長先生、両副会長先生の力感溢れる年頭のご挨拶。見事新春文芸を飾って頂いた小泉先生とさすが堤先生と思わせる軽妙タッチのベテラン・エッセイストぶり、生涯教育に賭ける熱血塩沢先生の健筆それらに支えられた1988年の新年号は大変素晴らしいものになりました。表紙に少しカッコイイ写真と思い拜島大師、青梅七福神を撮り歩き回りましたが、どうも正月早々失敗作ばかりで断念しました。

折角の先生方のご好意をハチャメチャなレイアウトと最低の理事会報告で心残りです。

諸先生のご健康と万事快適な一年となられるよう心からお祈りいたします。

担当編集委員 みちまた

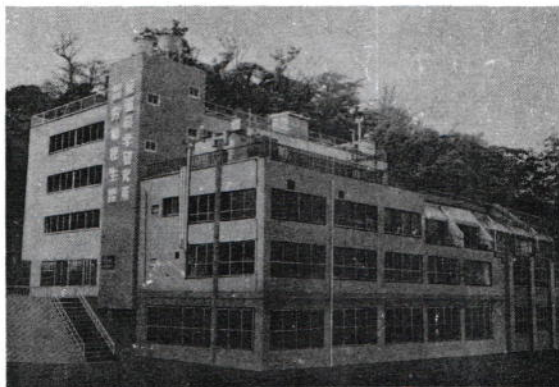
臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
 - 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
 - 関係医療機関 約 3,500ヶ所
 - 広範囲な検査内容
 - 内分泌学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査
- ！都川県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。

くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)

東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)

青梅支店 (TEL 0428-83-2515)
奥多摩特別出張所

福生支店 (TEL 0425-51-1021)

村山支店 (TEL 0425-61-1211)

五日市支店 (TEL 0425-95-1311)

河辺支店 (TEL 0428-24-2401)

秋川支店 (TEL 0425-58-2611)

ハイテクノロジー検査領域へ!

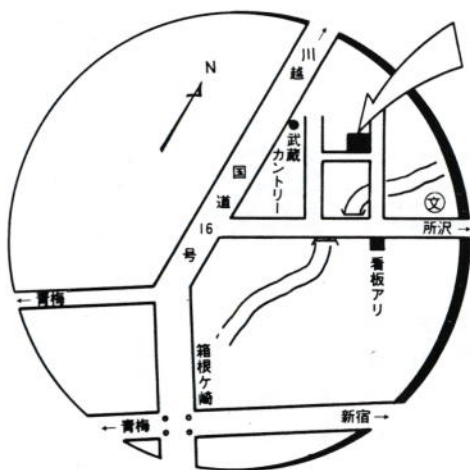
本社総合ラボは、日々進展化する臨床検査システムに対応すべく、関東医学研究所の総力を投入し、最先端検査機器を駆使した正確な情報の抽出を目指しています。検体のお預りからデータのご報告まで、確実に迅速にお応えします。

事業内容 一般検査、血液学的検査、血清学的検査、臨床化学検査、微生物学的検査、ラジオ・アイソトープ検査、病理学的検査、集団検診などの臨床検査



期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら**武蔵臨床**へ 電話一本緊急検査に応じます
学校、会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢339~1

TEL 0429 (64) 2621(代)